

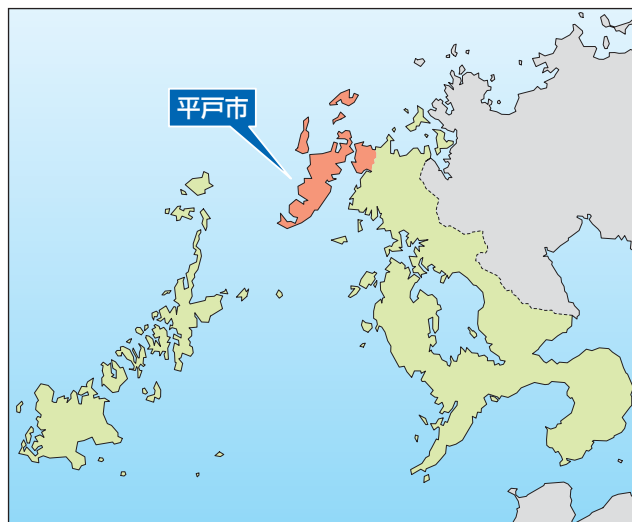
《わがまちのお宝 平戸市》

平戸英国商館設置400周年記念事業について

平戸市長 黒田 成彦

1. はじめに

平戸市は日本列島本土の最西端に位置しており、平戸島を中心とした旧平戸市と周辺の3町村による平成の大合併により平成17年に新平戸市となりました。本市は古くから海外との交易が盛んであり、遣隋使の時代から寄港地として発展を遂げ、真言宗開祖の弘法大使や臨済宗開祖栄西も滞在したという記録もあります。また16世紀の大航海時代には、ポルトガルやオランダ、イギリスなどの西欧諸国とのつながりを持つ国際都市として栄えた



歴史があり、当時「西の都」呼ばれるほどの繁栄がありました。また自然景観も雄大で、複雑な海岸線や四季折々の山海など美しい環境から生み出される農林水産物や特産品は、各方面からも高い評価を受けております。

特に、昨年は平戸産品の産直市場である「平戸瀬戸市場」のオープンや第10回全国和牛能力共進会において平戸生まれの長崎和牛が肉牛の部で日本一の栄冠に輝き、他の部門においても出品した全てが優等賞を獲得するという快挙といった農林水産部門では喜ばしいニュースがありました。

また、観光分野では、念願であった「平戸オランダ商館」の復元や、高倉健主演映画「あなたへ」のロケ地となるなど、知名度を全国的に広めることが出来ました。

その他、エネルギー分野では、県内自治体として第1号の「次世代エネルギーパーク認定」と、これに続く自治体所有地としては県内第一号であるメガソーラーが完成するなど、様々な分野で施策を展開しております。

2. 平戸とイギリスとの交流

年表

1600年	オランダ船リーフデ号が大分県臼杵市に漂着。 メドウェイ市出生の船員ウィリアム・アダムスはイギリス人としてはじめて日本の地を踏む。
1613年	英国船クローブ号が平戸に入港 平戸に英国商館を設置（11月24日：ウィリアム・アダムスが、商館員として雇用される。）
1615年	平戸英国商館長コックスにより、平戸に甘藷が植えられる。
1620年	ウィリアム・アダムス 平戸で亡くなる。平戸に埋葬される。
1623年	平戸英国商館閉鎖
1858年	日英修好通商条約が結ばれる
1902年	日英同盟が結ばれる
1927年	平戸で「英国商館遺址之碑」除幕式が行われる 列席者：英国大使・英国協会会頭・長崎駐在英國領事・平戸町長・松浦陸など
2008年	日英修好通商条約から150周年を迎え日英コラボレーションイベント UK-JAPAN2008を開催
2013年	平戸英国商館設置400周年記念事業が行われる

平戸といえばオランダとの交流による「平戸オランダ商館」と思われますが、実は、もう一つの商館の歴史があります。それは「平戸英国商館」です。1613年6月イギリス船クローブ号（司令官ジョン・セーリス）が平戸に入港したときから英国との交流が始まります。セーリスはイギリス国王ジェームス1世の親書を携えており、日本での通商を希望していました。そして、当時徳川家康の外交顧問ウィリアム・アダムス（三浦按針）などの尽力により、同年11月26日に平戸英国商館が開館されました。

（写真1）



（写真2）



英国商館での貿易は、さきを開館したオランダ商館との競争により、10年間で短い期間ではありましたが、大航海時代の「平戸」には欠かせない品物が数多く伝来し、大きな影響をもたらしました。

平戸英国商館の遺跡は現在殆ど残されていませんが、平戸市役所前と十八銀行平戸支店前に記念碑が建っ

ており往時を偲ぶことができます。平戸市役所前の記念碑（写真1）は、昭和2年に在日英国人有志により建立されました。記念碑の除幕式には、当時の英国大使も出席しており、英国においても、日本とののはじめての交易が平戸であると認識されていました。また十八銀行平戸支店前の記念碑（写真2）は、昭和50年にエリザベス女王の来日を記念して建立されました。

現在は、平戸英国商館があった木引田町を「英国商館通り」という通り名への改名や毎年8月第1金曜日に、初代英国商館長であった「リチャード・コックス」の名前から「コックスフェスタ」という縁日イベントを開催するなど、住民にとって、今もイギリスとの交流を大事にしています。

また、ウィリアム・アダムスの終焉の地であることから、彼の業績を顕彰するために、毎年5月最終日曜日（按針の命日である5月26日の前後）に、国際交流団体「HIRAの会」による「按針忌」（按針を偲ぶ慰霊祭）を開催しています。

この按針忌が縁でイギリス国メドウェイ前市長スーザンヘイドックと知り合うことができ、メドウェイ市からも修学旅行が来るようになりました。

3. 平戸英国商館設置400周年記念事業について

1613年にイギリス船クローブ号が平戸に到着し、平戸英国商館が設置されてから本年2013年は400周年を迎えます。

そこで、この記念すべき年に、民間と行政が一体となって実行委員会を組織し、観光や文化事業など様々な記念事業を計画しています。今回の記念事業は、先の平戸オランダ商館復元といったハード整備ではなく「市民主役によるまちづくり」を合言葉に、ソフト事業中心にまちづくりを展開していきます。

（ロゴマーク）



（シンボルマーク）



◆ 目的

1. 【歴史の継承と啓発】

400周年を契機に、「平戸の歴史」を市民が共有し、「歴史の継承・啓発」や「歴史の再発見」など新たな平戸の魅力を創出します。また、海外貿易の発祥の地「平戸」を広くPRするとともに、平戸市の知名度をアップすることを目的とします。

⇒歴史の啓発（文化事業・国際交流事業・記念事業など）

2. 【連携によるまちづくり】

400周年を契機に、新たなる連携を構築することで、地域間・国際交流の推進を図ります。

⇒国・県・関係自治体などとの新たなる連携（文化事業・国際交流事業など）

3. 【まちづくりの参画】

400周年を契機に、広く市民が事業に参画することで、協働のまちづくりを推進します。

⇒市民が主体的にまちづくりに参画し、実施するもの（観光事業・商店街振興事業など）

2013年4月1日から12月31日まで、観光、文化、国際交流など24の記念事業を展開します。

◆主な事業

●ANJIN／按針サミット（5月25日）

三浦按針ゆかりの地（臼杵市・伊東市・横須賀市・平戸市）と連携したサミットの開催

●外国人墓地発掘調査

平戸には、イギリス人、オランダ人など様々な外国人が葬られていました。そして、外国人墓地はレンガ造りと非常に大規模でありましたが、バテレン追放令と同時に破壊されました。その破壊された外国人墓地の発掘調査を行います。

●特別企画展

【松浦史料博物館】（5月18日～6月16日）

三浦按針や徳川家康に関連した特別展を開催。

【平戸オランダ商館】（11月上旬）

イギリスの食器などの展示やワークショップの開催。

●英国平戸展覧会・献茶式（9月中旬）

イギリスにおいて、平戸の歴史資料の展覧会。また、メドウエイ市ジリングム教会（按針が洗礼を受けた教会）にて武家茶道「鎮信流」による献茶式。またアンジンフェスティバルによる呈茶ワークショップ。

●英国修学旅行受入（10月下旬）

以前から交流があったメドウエイ市チャタムグラマースクール校からの修学旅行の受入

●平戸フットパス

フットパス（田舎を“のんびり歩く”ことをテーマとしたウォーキングイベント）。

西海国立公園などを中心とした、平戸の壮大な自然を活かしたウォーキングコースの設定やバスツアーを行います。

4. イギリスとの連携

イギリス側でも、この記念すべき400周年を祝う動きが予定されています。その推進母体として民間を中心とした「JAPAN400」という実行委員会が組織され、日本とイギリスの交流を紹介するさまざまな取り組みが計画されています。本年2月には記念事業のオープニングレセプションが東インド会社にゆかりのあるロンドン市スキナーズホールで開催され、黒田平戸市長からのお祝いのメッセージや平戸市産の2種類の地酒で祝杯を挙げるなど記念事業がスタートしました。8月には大英図書館で「セーリスやコックス、三浦按針に関する資料の展示」。9月には、按針のふるさとメドウェイ市で恒例の「按針フェスティバル」。10月にはロンドン市で「JAPAN祭り」など多くの事業が予定されています。

平戸市側の記念事業としても、松浦史料博物館が所蔵する関連した貴重な資料をケント州メイドストーン博物館での展示など、交流の礎を築いた三浦按針が洗礼を受けたジリングム（三浦按針の出生地）にある聖マグダレン教会での献茶式など連携した事業を展開することとしています。



(メドウェイ市長との協議)



(JAPAN400との協議)

5. おわりに

日本とイギリスとの初めての交易が「平戸」ということは残念ながらあまり知られていません。米紙ニューズウィークのコラムで、日本に住んだ最初の英国人、ウィリアム・アダムスと関係の深い平戸が、世界的に有名なところであることに気付いていないのは日本人だけと、皮肉った表現がされていました。この記念事業を契機として、改めてイギリスとの交流の歴史に目を向け、外国との交流で栄えてきた平戸を見直し、国際交流を通じて平戸の活性化が図られることを願ってやみません。

永い年月が経ち、今も続くこの平戸とイギリスとの交流をこの記念事業を通じて、永遠に続いていくことを願っています。